



「稲のはさがけと向日葵」
(撮影：小林会員)

令和 7 年 10 月号 Vol. 258
(2025 年)

発行：令和 7 年 10 月 12 日

あつぎ観光ボランティアガイド協会

ホームページ <https://atugikanvola.sakura.ne.jp>

メールアドレス atugikanvola@yahoo.co.jp

発行責任者 会長 田頭 文昭 編集担当者 澤田 正弘

《勉強会 「小林多喜二の七沢温泉逗留断」》

行事区分：会員研修

日 時：9 月 13 日（土）11：40～13：15

場 所：あつぎ市民交流プラザ ルーム 610

講 師：蠣崎澄子氏

参 加 者：会員 15 名、（一般参加者：31 名）

9 月度定例会終了後に勉強会が行われました。今回は会員の他に、一般の方にも参加（広報あつぎ等で募集）していただき大勢の参加がありました。

「蟹工船」で知られるプロレタリア文学者の小林多喜二が、七沢温泉福元館の離れにひと月ほど逗留していたことを蠣崎さんが知ることになり、逗留から 69 年目に公表されました。今年で 25 年目の節目に当たります。当時蠣崎さんは福元館の 5 代目喜代子さんや多喜二逗留時 18 歳（多喜二 27 歳）だった初子さん（対談時 88 歳）と対談された断を今に伝えていらっ

しゃいます。

豊多摩刑務所か

講師：蠣崎澄子氏



会場案内板

ら多喜二が釈放（昭和 6 年 1 月）され、間もなく田口タキとの結婚を断念し伊藤ふじ子（19 歳）と出会い、その後七沢温泉福元館に逗留（3 月中旬～4 月初旬）しました。福元館 3 代目館主古根村健司氏に多喜二の逗留を頼んだのは長女の初子さん（当時 18 歳）が通学していた厚木高等女学校（現在の厚木王子高校）の奈良師範学校出の三島みさを先生から頼まれたと 5 代目喜代子さんからうかがったそうです。（そのころ厚木高等女学校には中村雨紅が国語の教師でしたので、初子さんもきっと中村雨紅の授業を受けていたことと思います。）



多喜二は逗留中に「オルグ」の随筆を完成させましたが、伊藤ふじ子宛に出した手紙（ラブレター）が福元館逗留を知ることになるきっかけとなったそうです。手紙の裏書に「七沢の蟹」と書いてあり、七沢温泉に3軒ある旅館から福元館にたどりつき5代目喜代子さんが、これまで古根村家で秘密とされていたことを打ち明けてくれました。



初子さんが自費出版（1985年）された「あんなこと　こんなこと」の中に、多喜二逗留中の様子などが書かれています。（多喜二が毎日歌っていたという「折ればよかった」の「山かげの小百合」はきっと初恋の女性田口タキを想って歌っていたのではないのでしょうか。）
(鈴木 記)

荻野川付近 秋の風景

（撮影：高橋会員）



《信州・城巡りツアー》

行事区分：懇親推進

日 付：10月3日（金）～4日（土）

場 所：長野県

参 加 者：8名

コ ー ス：

- 1 日目 厚木市出発～龍岡城（佐久市・臼田町）～小諸城・懐古園（小諸市）～善光寺（長野市）～上田市内泊り（ルートインランド上田市駅前）
- 2 日目 上田城（上田市）～松本城（松本市）～諏訪大社（諏訪市）～高島城（諏訪市）～片倉館（諏訪市）～厚木市到着

1 日目 8人乗りのレンタカーに乗り厚木市を出発。相模湖から中央高速に入り、須玉 IC を出て 141 号線で清里方面へ。途中「びっくり市」で野菜類や加工品の買い物をして佐久市の臼田町へ。今回企画の城巡りツアーの 1 番の目玉で、日本で 2 つしかない「五稜郭（龍岡城）」の見学をしました。私は北海道の出身ですが、函館市の五稜郭の他に五稜郭がある事を知りませんでした。規模は函館市の 1/2 位ですが、お濠がと



五稜郭（龍岡城）
向こうに見えるのが小学校の建物



小諸城址（懐古園）

がっていて星形地形が確認できました。敷地内には当時の「お台所」と今は廃校になった小学校の建物がありました。

次に小諸市の小諸城（懐古園）に行きました。ここは背後に千曲川の急流と断崖、南北面には何本もの深い谷に守られていて、自然に囲まれた要害になっています。守備側は東側の三之門に兵力を集中できる構造の城でした。島崎藤村が詠んだ「小諸なる古城のほとり雲白く 遊子悲しむ 緑なす繁縷（ハコベ）は萌えず ーーー」の歌碑がある静かな古城です。観光ガイドの方がガイドホンを使ってガイドをしていました。次に長野市の善光寺に向かいました。

駐車場から善光寺の建物に近づくとその大きさに圧倒されました。ご本尊は一光三尊阿弥陀如来。ご本尊が安置されている床下の真っ暗な回廊をめぐるお戒壇めぐりを体験しました。（私は 2 回目の体験です）手で壁面を確認しながら進み、ご本尊様の真下に位置する「開運の錠前」にも触れることが出来、やっと出口にたどり着きました。本堂の入口から入ったところに「びんずる尊者」の木像がありました。お釈迦様の十六人の弟子の一人です。自分の患部と同じところ撫でると、病気が治る信仰があり、あちこちが触られて



善光寺

テカテカに光っていました。また正月には参拝者が堂内でびんずる尊者を台座ごと引き回す「びんずる廻し」があります。それから長野道で上田市に行き「ルートイングランド上田市駅前」というホテルに宿泊しました。

2日目 まず上田市の「上田城」を訪れました。真田昌幸が築いた大城で、この城で2度までも徳川の大群に勝利しました。今は北櫓（やぐら）、東虎口櫓門、南櫓が移築、修復されています。東虎口櫓門の前の橋の下に舗装された歩道がありますが、以前は上田電鉄の真田傍陽（さなだそえひ）線の電車が走っていました。私の妻もこの電車に乗って真田から上田市内の高校に通っていました。



上田城（真田神社）

ここから丸子町の三才山（みさやま）峠を越えて松本市の「松本城」に行きました。堀は広い池のようになっていました。堀の幅は城側からは鉄砲を撃ってこちら（敵側）に届く距離で、こちらから鉄砲をうっても高さがあるので城に届かないと



松本城

いう説明がありました。（なるほどね）。観覧券1300円を払って天守に入りました。各階には色々な種類の鉄砲が展示されていました。お城の構造は五重六階の建物ですが、内部の階段は9個ありました。急こう配で最上階に近づくにつれて階段の長さが短くなり、登りと下りの相互通行なのと、踊り場ですれ違いが難しい事、手すり片方しか使えないなど危険な登りでしたが、係員の注意呼びかけもあり、何とか最上階にたどり着きました。松本城下で昼食をしたり、お土産を買っ

たり、散策をしたりしました。

次に高速道路を使って諏訪市に行きました。最初にお参りしたのは諏訪大社下社（春宮）です。立派な彫刻が施された幣拝殿がありました。「御柱（おんばしら）」が2本立っていました。

その次にお参りしたのが諏訪大社上社（本宮）です。10万坪の広大な敷地の中に東宝殿、西宝殿2棟の茅葺の建物がありました。大勢の参拝者がいました。七五三のお祝の参拝者もいました。

次の高島城は車窓からお城の外観を見学しました。昔は諏訪湖に突き出した水城で「諏訪の浮城（すわのうきしろ）」と呼ばれていたそうです。



諏訪大社上社（本宮）

次に諏訪湖畔の片倉館にある浴場（千人風呂）に入りました。風呂の浴槽は広いといっても千人入るのは無理で、せいぜい50人くらい入る広さで、風呂の下には石が敷き詰められていました。中央高速を通過して相模湖ICで一般道に降り厚木市内に無事戻りました。お疲れ様でした。（澤田 記）

信州・城巡りツアーの写真集



龍岡城五稜郭の説明板



懐古園の入口



ホテルでの夕食



松本城最上階の天井に祀られる二十六夜神

《信州城巡りツアーを観ボラ活動に活かす》

会長 田頭文昭

今回は懇親推進の行事として実施したが、信州(長野県)の観光地として有名な城址・神社仏閣を中心に見学をする。信州の城郭では、国宝の「松本城」と日本に函館と共に2つしかない信州の五稜郭と呼ばれる「龍岡城」、戦国時代・関ヶ原の戦い時に徳川軍を2度も退けた「上田城」や島崎藤村でも有名な「小諸城」と諏訪の浮き城の「高島城」を見学しました。

訪れた4城とも石垣を積んだ城で同じ様に見えるが、歴史的な背景・地理的条件やレイアウト(なわ張り)等の工夫が見え先人の苦労や知恵が多少なりとも理解できた。

厚木には、七沢城や荻野山中城址ほかありますが、石垣も天守もありません。信州の城と比較すると

○戦国時代の「七沢城」は時間をかけ石垣や天守を造る余裕が無かったのと、財政上の余裕もなく天然の要害を利用し築城した。

○山中城址は、江戸時代で大名は城持ちが可能ですが財政的な理由で城は造っていません。

※企画ガイドでは、厚木の城と信州の城の違いでのガイドをすればより理解してもらえる?かも知れないです。

神社仏閣では、1400年の歴史ある国宝の「善光寺」と、全国にある諏訪神社の総本社である諏訪にある「諏訪大社の上宮・下宮」にお参りしてきました。

善光寺は地元の豪族本田善光の名前から「善光寺」と名付けられたとか、本堂は江戸時代の再建で東日本最大の木造建造物で、使われている柱は108本あり、国宝の指定を受けています。善光寺は無宗派の単立仏教寺院で、運営は天台宗と浄土宗がになっています。現在飯山観音で行われている開山1300年御開帳も、善光寺では7年毎に大々的に行われています。

次に、諏訪大社は下社(春宮と秋宮)と上社(前宮と本宮)4つの神社が祀られています。全国の総本社で国内の神社では最も古い神社と言われており、国内には約1万社があります。(厚木には4社あります。)

○御祭神は大国主神の御子神の建御名方神(たけみなかたのかみ)で、妻の八坂刀売神と兄の八重事主神が祀られています。

※企画ガイドの歴史探訪時に「諏訪神社」があれば、諏訪の総本社の説明を行なえばより説明に重みが出ると思います。

◎今回のツアーを終えて観ボラ活動に活かす事のまとめ

色々な情報や学習しての知識を基にガイドを行うが、『百聞は一見にしかず』のことわざの様に実際観た事を基にガイドすれば説明の深さや現実味が出ると思います。

最 近 の 活 動

日 付	場 所	内 容	参 加 者
9月 13日	アミューあつぎ	定 例 会	会員 18名
9月 13日	アミューあつぎ	勉 強 会 「小林多喜二の七沢温泉逗留断」	会員 18名
9月 28日	依知南地区	企画ガイド 下見 「ガイドと旧依知村を歩こう」	会員 9名
10月3日～4日	長野県	懇親推進 「信州城巡りツアー」	会員 8名
10月 7日	北公民館	編集会議	会員 3名

編 集 後 記

「実るほど頭を垂れる稲穂かな」。近所の農家の稲刈りはほぼ完了しました。今年は台風も来なかったので、豊作だったと思います。米価の方は昨年に比べ高止まりになってしまいました。猛暑も収まり10月15日(水)には久しぶりのハイキングガイド(江戸庶民の大山詣り)を予定しています。ケーブル駅近くで熊が目撃されたという情報がありました。賑やかに声をかけあいながら気を付けて登りましょう。

編集委員 小林 直樹 澤田 正弘 清田 邦男